

旭川市の鉄工メーカー「株エフ・イー」(株エフ・イー)が取り組む根菜類自動皮むき機の開発が高く評価され、経済産業省の「ものづくり日本大賞」(優秀賞)に輝いた。地場を代表する開発型企業として知られるが、じつは、先見の明を持ち同業同士の統合に踏み切り、旭川におけるM&A(合併・買収)の先駆けでもあった。

佐々木鉄工と甲斐鉄工が統合して設立

「機械屋」の「株佐々木鉄工」と「製缶屋」の「株甲斐鉄工」。もともと両社とも旭川市豊岡地区にあり、従業員12、3人程度の鉄工所で、佐々木

通彦(56)、甲斐啓二(53)両社長は旭川鉄工青年会の同期であり、良きパートナーだった。

だが、この2つの会社を一つにすることによって、「1+1が2ではなく、3にも4にも倍増させていきたい」との思いから

統合に踏み切り、「株エフ・イー」を立ち上げ、旭川鉄工業界のM&Aの先駆けだった。

佐々木氏が社長に就任し、甲斐氏は専務を務めることになったが、佐々木社長は「開発型企業として、これからの鉄工業の原点をつくって」と、鉄の元素記号を社名にした。当初、『あのバカ息子、会社を一つにしてうまくいくわけないだろう』と言われた」と振り返る。それもそのはず、

当時は「自分の会社の足を固めるだけで必死な時代」だったからだ。

2つの会社を一つにする。社長同士の合意で実現したM&Aではあったが、「結局、社員の意識を一つにするには15年かかった。給与体系や福利厚生、会社によってそれぞれ違うので、会社を一つにするということは簡単なことじゃない」。

当初見られた指示命令系統のあいまいさも、時間の経過とともに解消し、組織としてのまとまりが出来てきたという。

健康食ブームで話題の「大根の葉」に着目

「製缶屋」の甲斐鉄工

# 株エフ・イーに「日本ものづくり大賞」優秀賞 動く広告塔へ佐々木通彦社長 M&Aから20年 挑戦の軌跡

社長に就任し、同5年には1000万円、同13年に1500万円に増資しており、現在に至っている。

統合した後、佐々木社長が注目したのが、「根菜類の洗浄と選別」だった。「洗浄機には方程式というがない。方程式があると、大手が市場に参入してくるが、経験値が生きているこの世界では、大きな会社は参入できない」と、佐々木社長は中小企業経営者としての自負を見せる。

それまで道内を中心に事業展開してきたが、冬場はほとんど稼働していなかったため、「二年中、国内のどこかで生産している農産物はないか」と思案した末、着目したのが大根だった。しかも当時、健康食ブームで「大根の葉」が話題になっていた。そこで、大根の葉を付けたまま洗える洗浄

機の開発に取り組みむことになった。

機械が産地を作り季節問わず受注

同社ではダイコン、ニンジン、イモ類など、根菜類の洗浄・選別機械の開発製造を手がけ、大手農業用機械メーカーや販売代理店を経由し全国の農協や農家などに販売展開することになる。

受注も一年を通じて可能となり、「エフ・イー製」という新たな洗浄機ブランドを確立。まさに「機械が産地をつくる」とはうまく言ったもので、エフ・イー製の洗浄機が各地で導入されるように

なり、そのことが産地そのものの拡大につながっているという。

浄水場のろ過洗浄装置や各種施設の殺菌洗浄システムも、市場での認知度を高めることになり、平成19年後半からは台湾と韓国への販売が実現。各地の販売代理店と契約して収益体質も改善され、同21年3月期決算では、

黒字を確保。同23年3月期は、前々年に倒産した地場同業者「和泉製作所」関連の機械メンテナンスが増えたこともあって、売上高は5億円に迫る勢いとなった。

「シンプル・イズ・ベスト」の精神を、ものづくりの基本に掲げ、同23年には道の「北海道チャレンジ企業」(経営革新部門)に選ばれるなど、地場を代表するメーカーにまで成長を遂げている。

いいモノをつくりそれを発信する時代

そんな同社が今回受賞したのが、「ものづくり日本大賞」(経済産業省など主催)の優秀賞だ。受賞対象となった「根菜類の自動皮むき機」は、衛生面に配慮したオールステンレス製。シンプルな構造で、刃を使わず、さまざまなサイズのジャガイモや長イモを踊らせな



「ものづくり日本大賞」の優秀賞を獲得した「根菜類の自動皮むき機」



MINAMI 6  
DERMATOLOGICAL  
CLINIC

## 南6条皮フ科クリニック

院長 豊田 典明

〒078-8336 旭川市南6条通25丁目

TEL(0166)39-3912 FAX(0166)39-3913

サントリー サントリー ビフ

☒ 駐車場あり

(診療時間)

■月・火・水・金曜日  
午前9:00~午後12:30  
午後2:00~午後6:00

■木・土曜日  
午前9:00~午後12:30

■日曜・祝日/休診

●西明小学校 ●ホクト電子

南6条通 旭川信金 富貴堂

バス上 大正橋

は昭和34年、甲斐氏の父・甲斐幸男氏が資本金100万円で設立。压力容器や燃料を入れるタンクなどを製造し、平成元年には甲斐啓二氏が2代目社長に就任し、本社をそれまでの豊岡3条6丁目から工業団地3条2丁目に移転させた。

これに対して、佐々木鉄工はもともと、ペニヤ板を仕上げるホットプレス機を中心に、木工機械の製造を手がけていたが、貿易の自由化に伴い、ペニヤ板が東南アジアから輸入されるようになると、事業は低迷。佐々木社長が入社した昭和58年当時、会社の資金繰りは「どん底だった」という。

そして平成3年、相互補完と将来を見据えた形で、甲斐鉄工を存続会社として、佐々木鉄工と統合し、商号を変更して生まれたのが「株エフ・イー」だ。佐々木通彦氏が

がら、素材の形そのものを残し、皮を手でむいたように仕上げるのが特徴だ。規格外で廃棄されるイモの皮をむくことで付加価値を高め、商品にしようとして開発した。

ジャガイモなら、1時間約500<sup>キ</sup>の皮むきが可能で、「歩留まりアップで規格外になる原料に高付加価値をつけることができる」と同社。1台850万円。平成20年の発売以降、食品加工会社や野菜の皮むきを受注する障害者授産施設などが購入している。

このほか、道内では生産していない根菜類にも着目し、「生姜洗浄機」や「加工用サツマイモ洗浄機」、カメラセンサーで瞬時に形状を判定する多品種選別機なども手がけている。そして、馬鈴薯を切断することなく内部障害を判定する「馬鈴薯内部検査装置」も、旭

旭川を代表する鉄工メーカー「橋工フイー」



川高専と共同で開発を進めている。すべて自社設計だ。

佐々木社長は言う。「昔は、口を開けて待っていたら良かったが、いまは、いいモノをつくるのと同じ時に、情報発信も大切ではないか」。

惣菜大手「ヤマザキ」のメンテナンス管理役

佐々木社長は昨年春に行われた

「旭川市長選挙」に立候補し、落選したものの、「中小企業のオヤジ代表」を名乗り、旋風を巻き起こした。

この市長選効果もあり、同社の動く広告

塔」として、さらに認知度アップに貢献。これら一連のイメージ戦略と品質面での高い評価もあり、国内だけでなく海外からも引き合いや問い合わせが増加。最近では、台湾企業が視察に訪れたり、中国・上海で開催された「2011日中ものづくり商談会」への出展ほか、昨年11月にはドイツの見

本市ブースにも名を連ね、新たな販路開拓に余念がない。

北海道のものづくり産業は、食品加工機械を柱に発展を続けているが、惣菜製造メーカー全国大手「ヤマザキ」(本社・静岡県)の旭川進出に伴い、同社が、その機械整備に関するメンテナンス管理を担うことになり、現在、ヤマザキ本社工務部に職員を出向させ、技術修得に務めているという。

時代を取り巻く環境が厳しくなればなるほど、ものづくり産業の重要度が増してくるのも事実だが、「農業をはじめとする地域の産業から学び、今がある。会社を大きくするつもりはない。自分の身の丈に合った、限られたパイの中でのものができれば幸い」と佐々木社長は今後に思いをはせる。

(橋野)

まったく新しいマイク分離型 (MIC)

Beltone 新製品

# 補聴器

## TOUCH

タッチ

今までにない快適な聞こえ

### 補聴器のご用命は

技術も安心 価格も安心

## めがねのナカムラ

本店/旭川市豊岡4条2丁目  
無料試聴体験実施中 お気軽にご相談を!

補聴器取扱店舗 本店・末広店・永山店  
川端店・北彩都店・深川店  
お問い合わせ/☎0166-34-1726